

南北朝の動乱

足利尊氏が持明院統の光明天皇を即位させると、朝廷は2つに分裂して、南北朝の動乱と呼ばれる長い対立が始まった。やがて室町幕府が内紛に荒れると、南北朝の対立はより複雑に、そして激しくなっていた。対立は3代将軍足利義満の時に解消するが、対立が諸国の守護・地頭に与えた影響は大きかった。

○南北朝の動乱

●室町幕府の成立

1336年、足利尊氏は⁽¹⁾ _____ 統の⁽²⁾ _____ 天皇を立て、
また、幕府の政治方針を明らかにした⁽³⁾ _____ を発表した。

⇒室町幕府が事実上成立した。

◇(3) …「Q&A」で幕府の所在地などに回答する形式

◇室町幕府の基本法典は御成敗式目で、追加した条文を⁽⁴⁾ _____ と呼称

●三つ巴の離合集散

<幕府・北朝側>

1338年、足利尊氏が⁽⁵⁾ _____ に就任した。

→尊氏は弟⁽⁶⁾ _____ と幕府の政務を分担した。

⇒尊氏は軍事指揮を担当し、(6)は裁判を担当した。

やがて(6)と執事の⁽⁷⁾ _____ が対立した。

1350~52年、⁽⁸⁾ _____

…(6)と、尊氏の支持を得た(7)との激突に端を発し、

幕府内部に留まらず、南朝・北朝の対立も巻き込んだ争乱

◇執事…足利尊氏の補佐、足利氏の家政を担当する役職

<南朝側>

くすのきまさしげ 楠木正成・にったよしさだ 新田義貞の戦死後、

⁽⁹⁾ _____ を中心に抗戦した。

⇒しかし、壊滅寸前まで追い込まれた。

◇(9) …『⁽¹⁰⁾ _____』で
南朝の正当性を主張

南朝は(8)で当初直義に協力し、
息を吹き返した。

<尊氏派>



足利尊氏



高師直

<直義派>



足利直義

擾乱後も、尊氏派(幕府)・直義派・南朝の者が離合集散を繰り返し、抗争は10年余り継続

●動乱の収束

南北朝の動乱は、足利尊氏の孫で3代将軍⁽¹¹⁾ _____ の頃に収束に向かった。

⇒1392年、南朝の⁽¹²⁾ _____ 天皇が皇位を放棄し、

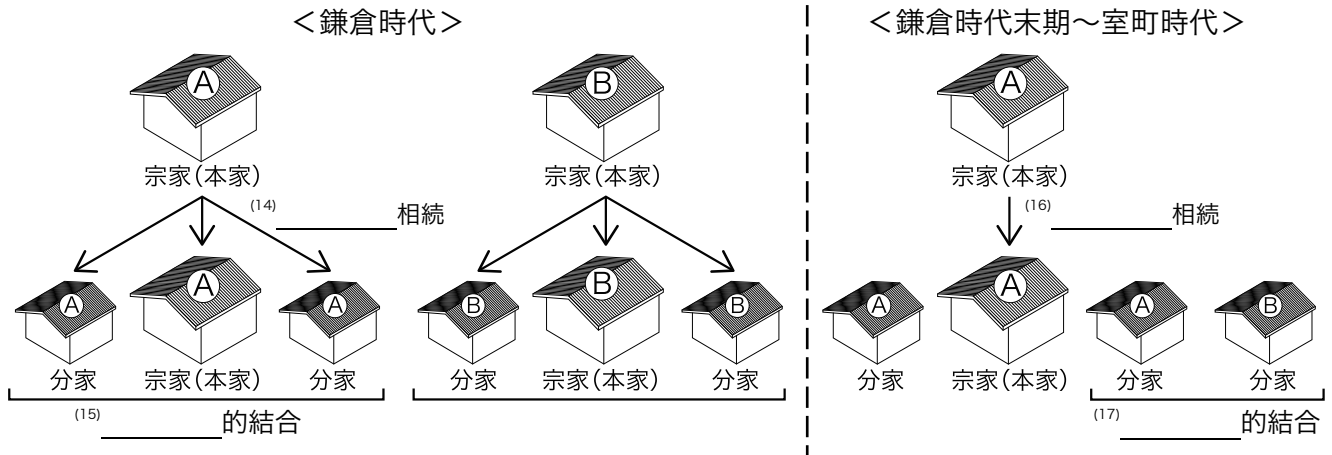
天皇が北朝の⁽¹³⁾ _____ 天皇1人となったことで、南北朝の合体が実現した。

●動乱が長引いた背景

動乱が長引いた背景には、次の2つが挙げられる。

①全国的に対立が増加②相続のあり方が変化

⇒一方が北朝側につけば、他方は南朝側につくという有様であった。



○動乱による社会変動

●守護の権限拡大

⁽¹⁸⁾ _____ は、鎌倉幕府が各国に置いた治安維持担当の役職である。

⇒南北朝の動乱で各地の武士が力を伸ばすと、武士を統括・動員するために、

従来①のみであった(18)の権限に、次の②～④が追加された。

＜守護の権限＞

①⁽¹⁹⁾ _____ (京都大番役の催促・謀叛人^{むほん}の逮捕・殺害人の逮捕をする権限)

+

②⁽²⁰⁾ _____ を取り締まる権限

③⁽²¹⁾ _____ (幕府の裁判の判決を強制執行する権限)

④⁽²²⁾ _____ で認められた、国内の荘園・公領の年貢を半分徴発する権限

◇(20) …田地をめぐる紛争時、所有権を主張して稲を一方的に刈り取る実力行為

◇(22) …1352年の発布時点では、近江国・美濃国・尾張国の3国のみ有効で、
期限も1年限りであったが、後に全国的に、そして期限なしに変化



鎌倉時代以降、地頭が荘園・公領の年貢納入を怠り始めていた。

⇒守護の力の増大にあわせ、年貢徴収を守護に請け負わせる⁽²³⁾ _____ が始まった。



室町時代の守護は、受領の権限を奪って国全体の支配権を握るなど、鎌倉時代と異なる。

⇒室町時代の守護を守護大名とも呼ぶ。

●国人の登場

地頭だった武士は守護に役割を奪われ、⁽²⁴⁾ _____ と呼ばれる存在に変質していった。

⇒(24)は守護の家臣になるか、(24)同士で⁽²⁵⁾ _____ を結んで守護に抵抗した。

◇一味同心^{いちみどうしん}…(25)に臨む前の、神仏に誓約して一致団結した状態